



主体的なみらいっ子 おこめをとごう



てっだって
あげるね



みんなです
いはんき
におこめを
いれよう！



おいし〜い！

野菜を収穫したよ！



ここにきゅう
りがあるよ！

びーまん、
とったよ！



きゅうしょく
せんせい、お
願いします。



の先生方の力も借りて、うちわであおいだりして、園庭で火おこしをしました。いいおきができたところで飯盒を火にかけて、30分くらいでお米が炊けました。あとは飯盒をひっくり返してしっかりむらし、給食の時間に、グループごとに炊いたご飯を食べることになりました。子どもたちは、「おいしそう！」「ごはんからたべよう！」と目を輝かせ、ご飯を口に入れていました。「おいし〜い！！」「いつものごはんとうちがう！！」「もちもちして、すご〜くおいしい！！」自分たちがといて、暑い中、火おこしを手伝ったご飯は、最高においしかったようです。食べることに子どもたちが、関わると、食事の時間は本当に楽しく、豊かになるなど感じた瞬間でした。それには、職員や保護者の皆さんも、食に興味関心を持ち、食材に触れる、野菜を育ててみる、旬の野菜を味わうなどが大切だと思います。できるところからでいいので、おうちでも一緒にお買い物で食材を選ぶ、簡単な調理をする、一緒に皮をむく、豆をとるなどでもよいのでやってみてください。また、その季節、行事にあった行事食なども家庭で食べることもいいですね。「このお料理はね・・・」とお子さんに話してあげることも大切です。給食もご家庭での食事、そうすることで楽しく豊かになると思います。食べごろだったトウモロコシはクラスにほぼ食べられてしまう事件もありましたが、「からすがおなかすいたのかな〜。きっとおいしかったんだよ。たべるのたのしみにしていたのにね。」と、残念そうにお話をする先生と子どもの姿も見られました。失敗経験をすることで、育てた野菜が食べられることに、感謝の気持ちを持ち、食べるられることに幸せを感じてくれることでしょう。

まだまだ暑い日が続きます。水分補給をしっかりとしながら、水や氷、気持ちいい感触あそびなど、楽しんでいきたいと思っています。

食べる喜びを感じるためには

この3年間、コロナと共生しながら保育を行ってききましたが、7月の中旬、年中クラスにコロナ感染が拡大してしまい、お子さんをはじめ、家族の皆さんにも大変な思いをさせてしまいました。本当に申し訳ない思いでいっぱいです。コロナウィルスが入ってくると、あっという間に広がってしまうことの恐ろしさを感じました。まだまだ自粛期間中の方もおられます。早く元気になられ、いつもの生活にもどれることを願っています。いつも言っておりますが、毎朝の検温、手洗い、消毒、幼児クラスのお友だちはマスクの着用をお願いします。また、少しでも、おかしいな、いつもと様子が違うなと思われましたら、お休みしていただく、お熱の時には病院を受診してもらうなど、これまで以上に注意をしていただきたいと思います。コロナウィルスはどんどん形を変えています。お出かけされる時、外食される時など、十分気を付けてください。よろしくをお願いします。

この夏、子どもたちが植えた野菜が、どんどん大きくなり、収穫の時期を迎えました。2歳児クラスの子どもたちも、きゅうり、なす、トマトなど採って給食室まで持ってきてくれています。その時の顔は何とも誇らしげで、僕たち私たちが育てたんだ！という自信に満ち溢れているのです。給食先生はすぐに塩もみをしたり、みそ汁の中に入れていたりして、給食の一品に付けてくださいます。きゅうりの嫌いな子も、ちょっと食べてみよう！という気持ちになるのです。みそ汁の中に入れていただいたなすも、「うん、おいしい！」と言って、その野菜に子どもたちの気持ちが集中し、楽しい給食の時間になります。

先日は、年長組がお泊り保育の取り組みで、お米をといで、飯盒でお米を炊きました。暑い日でしたが他



お盆

ご先祖様の霊をお迎えして、供養する行事です。この日は、亡くなった方々の魂が戻ってくるといわれています。

家族や親せきと一緒に過ごし、仏壇、お墓の前で手を合わせることは、たくさんの人々とのつながりを感じることでできる良い機会です。

立秋

(秋の気が初めて立つ)

8月8日ごろ

この日を境に秋の風が吹いてくるとい意味です。

処暑

(秋陰の気が増長し、暑気退かんとす)

8月23日ごろ

そろそろ暑さもおさまり、涼しくなるころという意味です。

8月のみらい文庫に平和に関連する絵本を少しですが紹介します。



当園でお世話になっているとこ先生が描かれた絵本です。原画は卒園した子どもたちの側で、描いていただきました。

沖縄在住の安里有生くんが小学1年生の時に作った詩が絵本になりました。

